

# 草花を 写真に撮る

監修 伊藤 善規  
写真家

草花の繊細な表情を写真で捉えてみませんか。草花を撮るコツは、シャッターを押す前に、その花のどこに惹かれたのかを考えること。ちょっとした気づかひをすることで、きっと写真に深みが出てきます。ここでは写真を撮り慣れていないひとのために、草花の撮影で知っておきたいことを紹介します。

## 接写(マクロ)モード

草花を大きく撮影するには、草花に近づいて撮る必要があります。カメラによっては「接写モード」という設定があります。この機能を使うことで、通常よりも草花に接近して撮影できるようになります。



接写モードを、花のマークにしているカメラもあります。



草地に咲くネジバナを地面すれすれからアップで撮影。群れて咲いているなかでも、背の高い2本を主役にしました。周囲のやや小柄なネジバナと背後の植え込みとで、ちょうど構図がシンメトリーになることを発見。主役の2本も寄り添うような角度で並びました。

## 写真を撮る前に

まずは撮影しようとする「花」のすぐ近くに、仲間の「花たち」にも目をやってみてください。それら脇役を画面の中に配置することで主役が引き立ちます。

次にファインダーやモニターで見た画像をよく見て下さい。写真が仕上がってから「もう少しあすればよかった」、「このゴミをとっておけばよかった」と後悔せずに、この時に解決すればよいのです。

## 周りの状況にも気をつけて

周りの状況や雰囲気も画面の中に入れるようにすると、奥行きと広がりのある写真になります。また、草花を望遠で写すと、写真が平面的になりがちです。

太陽が背中の方角から照っているときは、画面の中に自分の陰が入らないようにします。鮮やかな赤や黄色の服を着て花に近づくと、服の色が反射して花の色に影響することもあります。太陽が前にあるときには気をつけてください。

## 少し暗くても

なるべくフラッシュを使わない工夫をしてください。三脚やレフ板(反射板)、感度の高いフィルムを使ったり、白い布をレフ板の代わりすることもできます。

フラッシュを使うと平板な写真になりやすく、距離が近すぎると露出オーバーで花が白っぽくなりがちです。背景も思

った以上に暗くなることが多いのです。

## ピンボケに注意

望遠で拡大しての撮影や接写モードは、通常の撮影に比べてピントが合う範囲が狭くなる性質があります。このためピントが合わずに写真がボケやすくなります。



花を撮ろうとして手前の葉にピントが合ってしまった。

## ぶれに注意

手ぶれを起こさないように両脇を締めてしっかりとカメラを構えます。また風などで草花が動いてしまうこともあります。デジタルカメラによっては感度(ISO)を変えられることもあります。こうした場合は感度を高くして、ぶれを防ぐこともできます。



日かげになっていると、シャッタースピードが遅くなり、ぶれやすくなります。

## フォーカスロック

オートフォーカスのカメラで、中央ではないところにピントを合わせる方法がフォーカスロックです。花を中央に置いた状態でシャッターを半押しして一度花にピントをあわせます。次に花との距離を変えないように注意して、カメラを動かして撮りたい構図に戻してシャッターを押します。



シャッターを半押しして花にピントを合わせます。

## ファインダーとのズレ

コンパクトカメラで接写すると、ファイン

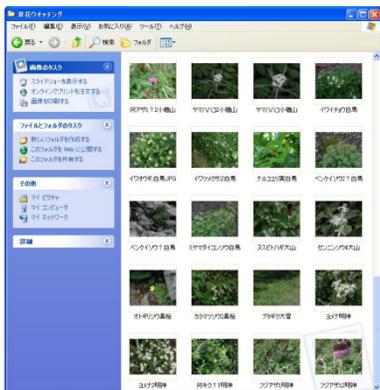


ファインダーでは上のように見えても、下のよう撮影されました。

## デジタルカメラは簡単に便利

デジタルカメラでは液晶モニターを使って、撮影した草花をその場ですぐに見ることができます。拡大して表示できれば、ピントやブレの確認ができます。また、フィルムカメラに比べて接写が得意な機種も多いようです。

撮影したものは現像に出さずにパソコンで見ることが出来ます。ほとんどのデジタルカメラには写真を扱うソフトウェアが付属していますから、加工や整理も比較的簡単にできます。



フォルダに整理するだけでも、アルバムのように見ることができる機種もあります。